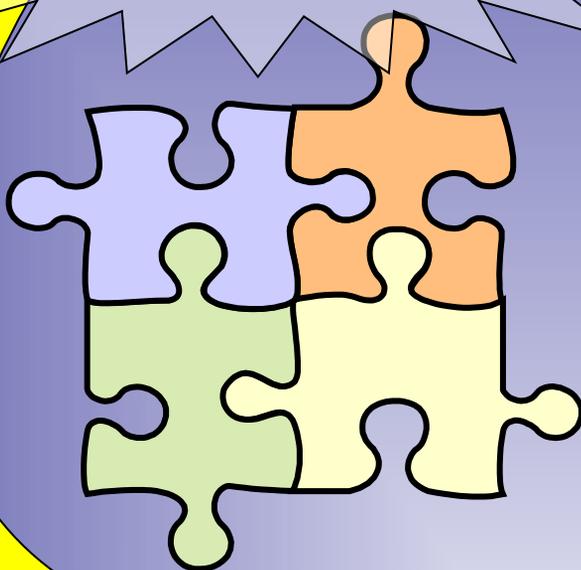


第28回日本診療放射線技師学術大会 消化管関連団体合同企画

基準撮影法の検証と
読影の補助について



記

- 期 日: 平成24年9月29日(土) 午前8時50分～午後5時
- 会 場: 名古屋国際会議場(名古屋市熱田区熱田西町1番1号)
- 主 催: 公益社団法人 日本診療放射線技師会
- 共 催: 社団法人 愛知県放射線技師会
- 参加費: 会員(JART) :事前参加登録 5.000円 当日参加登録 10.000円
非会員(JART):事前参加登録 10.000円 当日参加登録 15.000円

第28回日本診療放射線技師学術大会 4団体合同企画趣意書

趣 旨

診療放射線技師が介在する消化管X線検査に関する全国組織は、現在、大きく分けて4団体(日本消化管画像研究会、胃がん検診関係団体、NPO法人日本消化器がん検診精度管理評価機構、日本消化器画像診断情報研究会)が個々に活動を行っています。その活動内容は、役員、研修会の内容など重複することが多く、若い方々に混乱を招いているのが現状であり、対外的にも纏まりのない不透明な集団(診療放射線技師)と認識される傾向にあります。これらの点を踏まえ、4団体の代表者が過去数回にわたり、情報交換と各団体が主催する研修会への参加を呼びかけ協力体制のもと、活動の展開が始まっております。

合同会議の中でも、今日、国民に受け入れられる職種となるためには、厚生労働省の通達にあるチーム医療として参画できる体制づくりが必要であり、現在、現場で行っている法的な境界領域での業務内容も踏まえ、国民に貢献できる連携を強化した体制づくりが必要であるとの意見統一が成されました。

従来は、バリウムスタディの開発・発展といった精度向上に向けての時期であり、各団体が主導の活動が成果を生み、がん検診において人命に寄与できる唯一の検査法として認められてきました。そして、更なる発展を遂げるためには“今こそ”そこに介在する診療放射線技師が一つに成り、国や国民と共に歩める体制づくりが必要と考えます。

この度、平成24年2月24日の4団体合同企画検討委員会において、日本診療放射線技師会中澤会長の提案により、第28回日本診療放射線技師学術大会の一企画として4団体が合同で開催する機会を頂きました。

各団体におかれましては、会員の意向に沿った活動や事業に多忙の処、誠に恐縮では御座いますが、消化管X線検査に従事する診療放射線技師の将来を熟慮され、今回の企画にご協力頂きますようお願い申し上げます。

平成24年4月吉日

4団体代表 日本消化器画像診断情報研究会

会長

埋橋 喜次

平成24年 9月29日(土)

8:50	消化管関連団体合同企画	
9:00	第28回日本診療放射線技師学術大会 大会長挨拶 佐野 幹夫	練馬区医師会医療健診センター 埋橋 喜次
11:00	テーマ "NPO基準撮影法の検証と精度管理について" パネルディスカッション"基準撮影法の検証"(120分) ①検診施設:(15分):村田 徹(三愛病院) (15分):富樫 聖子(東京都予防医学協会) ②対策型検診(15分):北本 哲也(札幌がん検診センター) (15分):山本 兼右(大阪がん循環器病予防センター) ③専門病院(15分):山入端 薫(埼玉県立がんセンター) ④総合病院(15分):谷野 節男(日立記念病院) 討論(30分)	早期胃癌検診協会 工藤 泰 埼玉県立がんセンター 腰塚 慎二
11:00	講演 "読影補助の定義と教育について"(60分) 早期胃癌検診協会 松本 史樹	座長 神奈川県予防医学協会 木村 俊雄
12:00		
13:00	シンポジウム①(90分) 各団体の活動と合同企画に期待すること 発表 各15分 討論15分 ①胃がん検診:宮田 和則(魚沼地域胃集団検診協議会) ②日本消化管画像研究会:山崎 富雄(埼玉医科大学病院) ③日本消化器画像診断情報研究会:出島 毅(東京日立病院) ④NPO胃精管構:鶴田 恭央(東京医科大学茨城医療センター) 討論30分	座長 日本消化管画像研究会 小野寺 礼子 海上ビル診療所 浅田 栄一
14:30	シンポジウム②(90分) 読影の補助に向けての取り組み 発表 各15分 討論30分 指定 胃 :見本 真一(神奈川県予防医学協会) 胃 :工藤 泰(早期胃癌検診協会) 超音波:安藤 健一(東葛病院) 大 腸 :奥田 圭二(社会保険中央総合病院)	座長 札幌厚生病院 山田 泰司 大垣市民病院 川地 俊明
16:00	教育講演 (60分) 「放射線技師の読影の補助に何を期待するのか」 チーム医療推進委員会 委員 東京都がん検診センター消化器科部長 入口 陽介 先生	座長 ベルクリニック 婦木 祐市
17:00		